
岸本町・溝口町合併協議会

合併まちづくり委員会
提言書

平成 15 年 9 月

岸本町・溝口町合併まちづくり委員会

[目次]

1 . 合併まちづくり委員会の概要と活動経過

- (1) 開催目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- (2) 構成と運営・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- (3) 委員名簿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- (4) 活動経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

2 . 部会からの提言

- (1) 教育文化部会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
- (2) 生活環境部会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
- (3) 福祉保健部会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
- (4) 商工観光部会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
- (5) 農業部会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

1. 合併まちづくり委員会の概要と活動経過

(1) 開催目的

岸本町と溝口町は、地方分権や少子高齢化社会などに対応しながら、地域の特性を生かしたまちづくりを行うため、合併を目指している。

その基本方針となる新町建設計画（岸本町・溝口町合併まちづくり計画）を住民と行政がまちづくりを行うための共通目標とするため、住民のさまざまな意見を聞く場として、それぞれの立場を越えて、よりよいまちづくりという共通の目標に向けて、建設的、創造的な会としてまちづくり委員会を開催する。

(2) 構成と運営

委員数 47名

会議方式 部会にわかれてのワークショップ方式を基本とする。

設置部会 教育文化・生活環境・福祉保健・商工観光・農業 5部会

その他 報酬・費用弁償は一切なし

(3)委員名簿

委員長 野口智弘

副委員長 谷口恭之

(敬称略)

部会	町名	氏名	住所	役職名
教育文化部会 10名	岸本町	杉田敬明	吉定	
		仲田恵美子	番原	
		坂田良典	吉定	副部会長
		眞野謙作	眞野	
		遠藤範文	吉定	
	溝口町	権代篤志	上野	
		白川 泉	根雨原	部会長
		山本和宏	二部	
		後藤佳子	古市	
		澤田秀子	谷川	
生活環境部会 8名	岸本町	高塚勝利	大殿	
		野口智弘	大原	部会長
		影山幸寿	大殿	
	溝口町	谷口恭之	父原	副部会長
		佐久間研治	福兼	
		阿部博正	古市	
		南波樹人	溝口	
		一橋恵子	父原	
福祉保健部会 10名	岸本町	濱田辰美	清原	
		小原智恵美	須村	
		長谷川令子	坂長	
		山浦久美子	坂長	副部会長
		児玉千苗	大殿	
	溝口町	森田多賀枝	荘	
		山口代子	三部	
		松本賢祥	貴住	
		石原鉄也	父原	
		赤井 渉	白水	部会長
商工観光部会 10名	岸本町	金田和子	吉長	
		山本朋伸	眞野	
		足尾賢二	小林	
		林原 豊	小林	
		幸形信之	久古	部会長
	溝口町	森本真人	貴住	
		山岡啓一	上野	
		長田敦男	溝口	
		石崎 賢	溝口	
		松岡昌之	岩立	副部会長
農業部会 9名	岸本町	和田 亮	坂長	
		勝部弘志	遠藤	副部会長
		松原佐喜恵	久古	
		遠藤光明	小町	
	溝口町	木嶋泰洋	谷川	部会長
		遠藤達也	富江	
		影山千世子	船越	
		遠藤優正	富江	
		益田 晃	大坂	
		委員総数	47名	

(4)活動経過

第1回

日 時	平成 15 年 7 月 10 日 (金) 19:00 ~ 21:05	会 場	岸本町農村環境改善センター
会 議 の 主 な 内 容			
会議項目	概 要		
任命書交付	代表者に河合会長から任命書を交付		
あいさつ	河合会長あいさつ		
合併スケジュールの説明について	合併スケジュールの概要を説明		
まちづくり委員会の概要について	まちづくり委員会の設置趣旨、委員会の構成と運営、開催スケジュール、その他の確認事項を説明		
部会での顔合わせ	部会ごとに自己紹介		
役員を選考について	部会ごとに部会長、副部会長の互選。 部会長、副部会長の中から委員長、副委員長を互選 (役員名簿は下記)		
現行計画の検証について	第3次岸本町総合計画、岸本町地域建設事業計画、岸本町地域省エネルギービジョン、第4次溝口町総合計画について概要説明 (各計画書を委員個々に配布)		
両町視察について	7月 18、21 日で開催する合併まちづくり委員会町内視察の参加希望の聞き取り		

町内視察1

日 時	平成 15 年 7 月 18 日 (金) 13:00 ~ 16:30
視察場所	
溝口町役場前 12:50 集合 溝口町役場視察 鬼の里テレビ 二部小学校等 福岡分校 日光小学校 榊水フィールドステーション 別所川溪流植物園 大山ガーデンプレイス 総合スポーツ公園 岸本温泉ゆうあいパル(10分) 岸本町役場視察 溝口町役場着 解散	

町内視察2

日 時	平成 15 年 7 月 2 1 日 (月) 海の日 13:00 ~ 16:30
視察場所	
岸本町役場前 12:50 集合 岸本町役場視察 総合スポーツ公園 大山ガーデンプレイス 別所川溪流植物園 榊水フィールドステーション 日光小学校 二部小学校等車窓から 福岡分校 鬼の里テレビ 越敷野ふるさと農道経由 岸本温泉ゆうあいパル 岸本町役場着 解散	

第2回

日 時	平成 15 年 7 月 24 日 (木) 19:00 ~ 21:15	会 場	岸本町農村環境改善センター
会 議 の 主 な 内 容			
会議項目	概 要		
ワークショップの説明	全体会でワークショップのすすめ方について説明		
部会ワークショップ	両町の課題・問題点について (地域が抱える課題や問題点を検討) 両町合併による可能性について (合併することによる地域発展の可能性)		
部会ごとに内容発表	全体会で各部会の検討内容を発表し合い、部会間の情報交換と共通理解を深めた		
	終了後、商工観光部会、農業部会は部会開催		

第3回

日 時	平成 15 年 8 月 7 日 (木) 19:00 ~ 21:40	会 場	溝口町中央公民館
会 議 の 主 な 内 容			
会議項目	概 要		
部会ワークショップ	両町合併による可能性について (前回のつづき) 新町のまちづくりの方向づけ (こんなまちづくりを進めよう) 新町で取り組むべき施策について (こんな取り組みを始めよう)		
部会ごとに内容発表	全体会で各部会の検討内容を発表し合い、部会間の情報交換と共通理解を深めた		
	終了後、福祉保健部会は部会開催		

福祉保健部会開催

日 時	平成 15 年 8 月 22 日 (金) 19:00 ~ 22:00	会 場	溝口町中央公民館
会 議 の 主 な 内 容			
会議項目	概 要		
部会ワークショップ	○新町のまちづくりの方向づけ (こんなまちづくりを進めよう) 部会ごとのいくつかのテーマづくり ○新町で取り組むべき施策について (こんな取り組みを始めよう) 課題や問題点の解決策の提案、新町誕生で進めるまちづくりの 施策		

第4回

日 時	平成 15 年 8 月 2 8 日(木)19:00~21:10	会 場	溝口町中央公民館
会 議 の 主 な 内 容			
会議項目	概 要		
部会ワークショップ	<p>新町のまちづくりの方向づけ 前回のつづき (こんなまちづくりを進めよう) 部会ごとのいくつかのテーマづくり 新町で取り組むべき施策について 前回のつづき (こんな取り組みを始めよう) 課題や問題点の解決策の提案 新町誕生で進めるまちづくりの施策 新町のまちづくりへの提言 (わかりやすくまとめて伝えよう) これまでの話し合いや意見のとりまとめによる提言の作成</p>		
開催予定の変更	<p>当初の予定を変更して第5回目を開催する。 平成15年9月4日(木)19:00~ 岸本町農村環境改善センター 全体会としての委員会は、第5回を最終回とし、提言とりまとめ に至らない部会は、部会独自に開催することを確認した。</p>		

第5回

日 時	平成 15 年 9 月 4 日(木)19:00~21:10	会 場	岸本町農村環境改善センター
会 議 の 主 な 内 容			
会議項目	概 要		
部会ワークショップ	<p>新町のまちづくりへの提言とりまとめ (わかりやすくまとめて伝えよう) これまでの話し合いや意見のとりまとめによる提言の作成</p>		
委員からの意見	<p>この委員会が打ち上げ花火にならないよう住民と行政が手を 携えて新しいまちづくりに取り組まなくてはならない 今後もこのような会を継続的に開催してはどうか</p>		
あいさつ	住田副会長あいさつ		

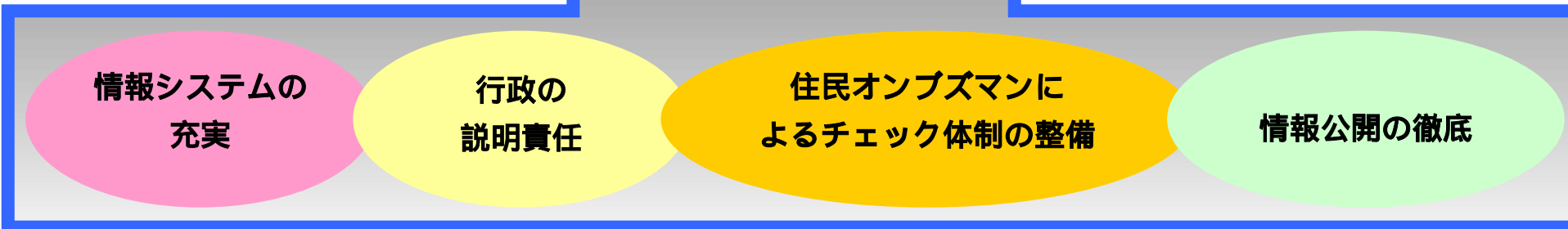
2. 部会からの提言

メインテーマ

たくましく豊かな人間性の育成

生涯学習機会の充実 学校教育の充実

芸術文化	人権教育 同和教育	青少年の 健全育成	あらゆる 世代の各種 教育の充実	自然環境 との共生	施設・設備 の充実	個々の 能力の 伸長	教育の 意識改革
写真美術館の活用 鬼の館ミュージアムの活用 植田正治写真美術館を学習発表の場に 地元の芸術家の育成 伝統文化の継承 新しい文化の創造 子どもの施設のフリーパス 役場のホールや公民館、小中学校などに地元の作家、芸術家の作品展示コーナーを作り、地元の芸術家を知り作品に親しむ	・同和教育 ・障害児教育 ・男女共同参画 啓発の推進 「在日コリアン」への理解と共生 「高齢者」への感謝とボランティア教育の充実	有害図書の排除(自動販売機の撤去) PTA、児童民生委員、育成委員、学校等の協力によるパトロールの実施 留守家庭学級の充実 フリーターの就職斡旋	高齢者の生きがいづくり支援 社会人の自己啓発の機会の充実 学校5日制の受け皿として地元の人材活用 公民館事業の充実	スキー場の整備 子どもたちに自然体験型宿泊施設の新設 子どもの施設のフリーパス 公園、遊び場の整備(安全性)	安全な通学手段の確保 信号・街灯の整備 小中学生バス通学の経費全額補助 中学校給食時のランチルーム設備 地元の食材を利用した給食の確保 分校の統合 保育園の一日託児制度の導入 部活が終わってからバスを待つ時間に自習をしたり、本を読んだりできる場所の確保	小学校での英語教育の充実 小学校でのパソコン教育 スポーツ少年団への補助 公立学校選択の自由	中学校の進路指導の充実 小中学校の授業をテレビで情報公開 教職員の研修の充実 学校を外部から評価するシステムの確立 小中学校の教育内容をケーブルテレビで住民に説明する 地域の教育力の活用(いろいろな職業の人に定期的に授業をしてもらう) 小中学校の生徒から教え方についての希望や、生徒の悩みなど意見を聞くアンケートを行う 郷土の文化歴史の教育



メインテーマ

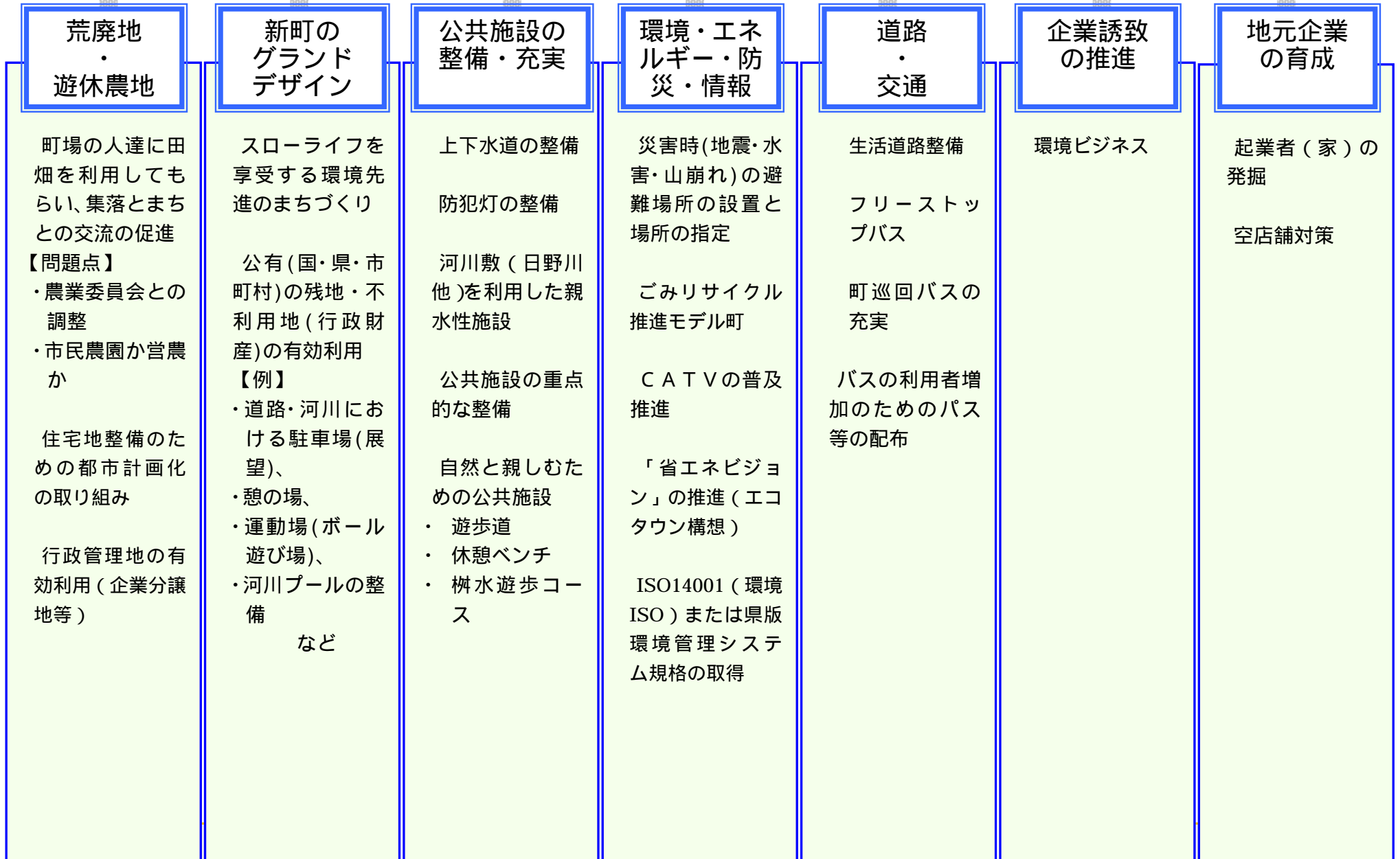
環境を創り、生かし、守るまちづくり

住民が参加できるシステム作り

土地の有効利用

新たな生活環境の創造

雇用の確保



過疎化対策

高齢者（独居）対策

若者定住

うるおいのある「村づくり委員会」（父原モデル）

結婚の実現
・交流
・外国人
空家対策
過疎化対策

総合的な支援センター

高齢者福祉

- ・配食サービスの充実
- ・在宅福祉サービスの充実
(24時間体制)
- ・独居老人世帯の支援体制の整備
- ・ボランティア活動(ボランティア制度の見直し)
- ・買物の代行
- ・外出支援サービスの充実

ボランティア活動

健康な心

- ・相談窓口の設置(健康・病気・心)
- ・精神的ストレスの解消法
- ・命の大切さ、人のぬくもりを知る(活動)
- ・性教育の充実(エイズ・避妊)
- ・正しい事、正しくない事を教える(CATVの利用)

専門化とのコーディネート

- 小地域活動の支援
- 総合的な相談窓口
- ボランティアセンター

安心して暮らせる環境整備

施設の整備充実

- ・町施設のバリアフリー化
- 病気にかからない体づくり(健康予防)
- ・小地域の健康管理(まめまめくらぶ)
- ・生活習慣病をなくす
- ・CATVを利用した健康講座(3分間ストレッチ)
- ・健康管理を地域ぐるみで行う
- ・パワーリハビリ施設の整備
- ・人間ドック受診補助

子育て支援

- ・24時間体制の保育園の整備
- ・働く女性のための乳幼児施設
- ・母子・父子家庭の支援拡充
- ・かぎっ子の介助

福祉のまちづくり計画の推進

医療の充実・救急体制の整備

- ・各医療機関の横のつながり(医療機関の連携)
- ・医療・保健・福祉施設の連携
- ・ドクターカーの運行

障害者福祉

- ・訪問支援の充実
- ・障害者が働ける場所の確保
- ・障害者が入所できる施設の整備
- ・障害者と健常者が交流できる行事、活動の場の提供
- ・障害者の外出支援

交通手段の確保

- ・過疎路線での巡回バスの運行
- ・低床バスの運行
- ・医療機関へアクセスの充実(巡回バス)

地域が支える福祉ネット

地域の活性化(地域間格差・人材活用)

- ・人材の配置
- ・子育て・介護の補完 世代間交流
- ・じげおこしのネットワーク
- ・伝統文化の継承
- ・集会所の整備(安心して遊べる場所づくり)

- ・集落活動と地域行事の継承
- ・地域リーダーの育成
- ・地域活性化の支援(人・財源)
- ・まちづくり隊(まちづくり、地域活動の支援)
- ・まちづくりサポーターの募集・養成

メインテーマ

誇りある「正面大山」「山の手」ブランドの確立と、実現。

大山の真正面に住まうことを「誇り」とし、この誇りを「ブランド化」、
他エリアとの差別化をはかり、商工観光活性化の柱とする。

サブテーマ(2つの誇り)

[観光] 観光客へ対しての差別化とブランド化

富士山のように見える大山を「正面大山」と位置づけ、
新町の観光資源・人材・英知を連携・結集し、正面大山観光を全力でPRする。

[商工] 近隣エリアへ対しての差別化とブランド化

米子から見て大山すそ野となる新町を「よなご山の手・奥山の手」と呼び、
誇り高く、こだわりを持った街づくりを展開し、ブランド化していく。

キーワード・具体的施策案など

- ・新町の町名に「大山」を入れることを希望する。
これにより現溝口ICを「正面大山IC」等とすることが可能に。
これにより現溝口駅を「正面大山駅」等とすることが可能に。
これにより、全ての交通看板に「正面大山」はコチラと、誘導することが可能に。
- ・誇りの具体的ブランドとして観光には「正面大山」、商工には「山の手」としての展開を希望する。
- ・「観光看板・道路看板」の積極的造設策を希望する。
- ・「観光課」など観光専門課の設置を希望する。
- ・積極的な「連携」により、広域観光化を目指し、具体的なオススメ周遊コースを策定する。
- ・「リゾート観光(岸本側)」と「グリーンツーリズム(溝口側)」の連携強化策を希望する。
- ・現榊水高原と現大山まきばを含めて「大山高原」と呼ぶよう提案する。
- ・現榊水スキー場は「大山高原スキー場」として、親しみある価格設定など活性化を図る。
- ・とっとり花回廊と正面大山に挟まれた現溝口駅を「特急停車駅を目指して」長期的に取り組むことを希望する。
- ・現溝口駅前を、公共交通機関を利用した観光拠点として位置づける。
- ・大山ガーデンプレイスをクルマを利用した観光拠点として位置づける。
- ・現溝口町内にグリーンツーリズムの拠点を検討する。
- ・新町観光のシンボルともなるような大きな広域観光看板を各拠点に設置する。
溝口ICから大山へ向かう道沿い(ペンション前の道との交差点)に
観光案内の巨大看板もしくは、案内所の新設を希望する。
- ・これらの各観光拠点を観光ループバスで連絡するよう希望する。
- ・日野川沿いを親水ゾーンとして整備することを希望する。
- ・大山ペンション村とアイノピアペンション村を連携して、西日本最大のペンション村をPRする。
- ・日本一づくりにチャレンジして、夢と誇りある町づくりを展開する。
- ・CATV・インターネット等を積極的に利用して観光PRをする。
- ・町民主体・行政参画による、観光振興を目的としたネットワーク団体を結成する。

あっこの道? 「正面大山」方面へ行ったほうがいいのかな?

大山観光なら「大山高原」から「正面大山」を見なきゃ!

週末は「正面大山」へ遊びに行こうか!

これ、「正面大山・山の手」のお土産よ! さすが「山の手」のお野菜、お米は格別ね!

私も「山の手」に住んでみたいわ!

僕の生まれは、「あの、山の手」なんだ!

クリスマスは「山の手」で過ごしましょうよ!

【備考】

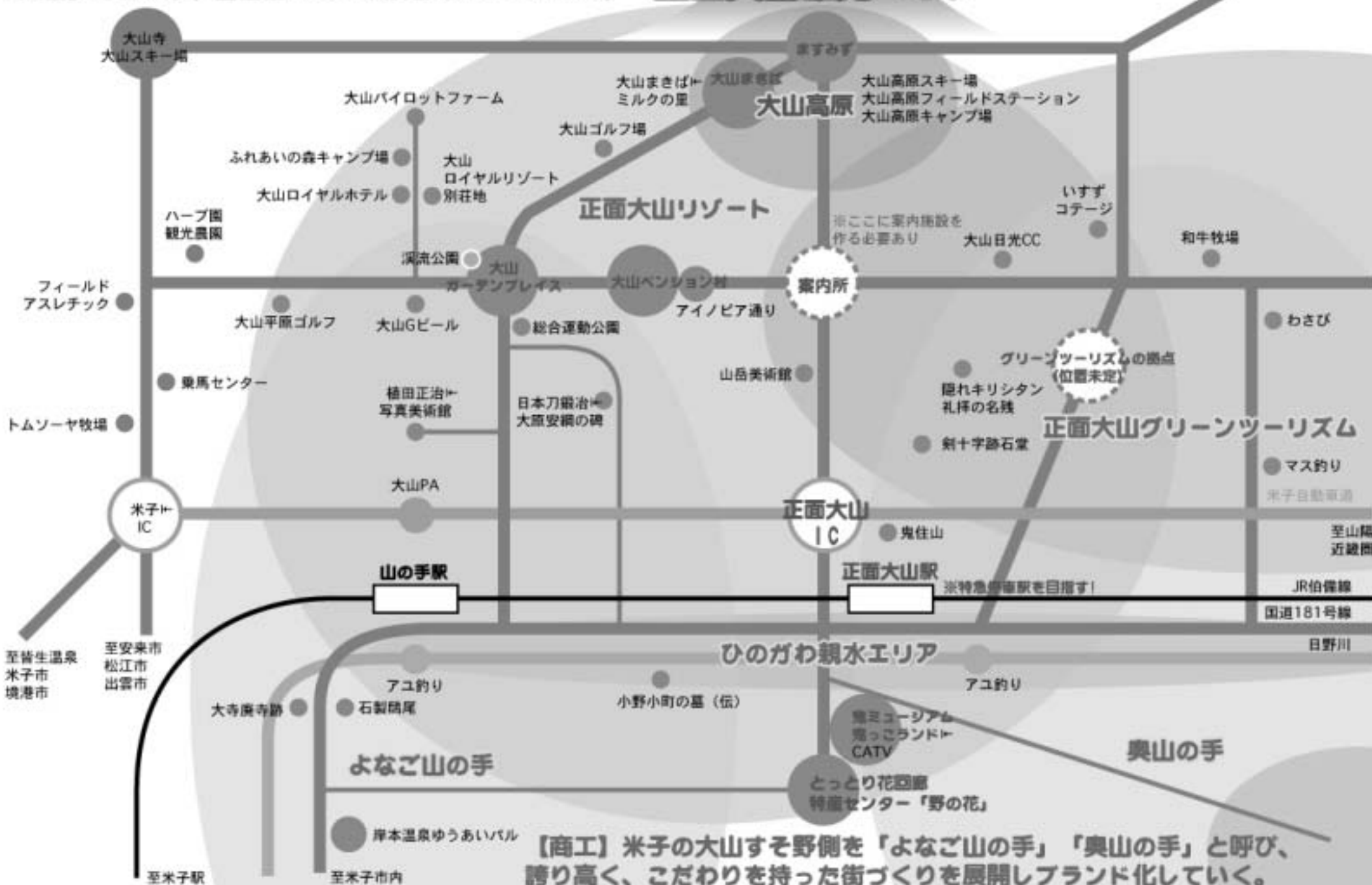
新町に住まう皆に、「誇りある町」としての「ブランド化」のコンセプトが浸透し、今後の町づくりの各局面ごとに、具体的に一步一步実現し、一定レベルまで達成すれば、観光誘客による商工観光の活性化のみならず、独自文化として明確な差別化を実現し、この地域に住む事への誇りが芽生え、町民一人ひとりの心の中から沸き上がる生き甲斐となり、町全体が活性化し、ひいては、過疎化、少子化を防ぐことも可能となりうる。

新町の商工観光ゾーンのご案内・草案

【観光】富士山のように見える大山を「正面大山」と呼び、「大山」と言えば、富士山のような景色をPRしつづける。

正面大山観光エリア

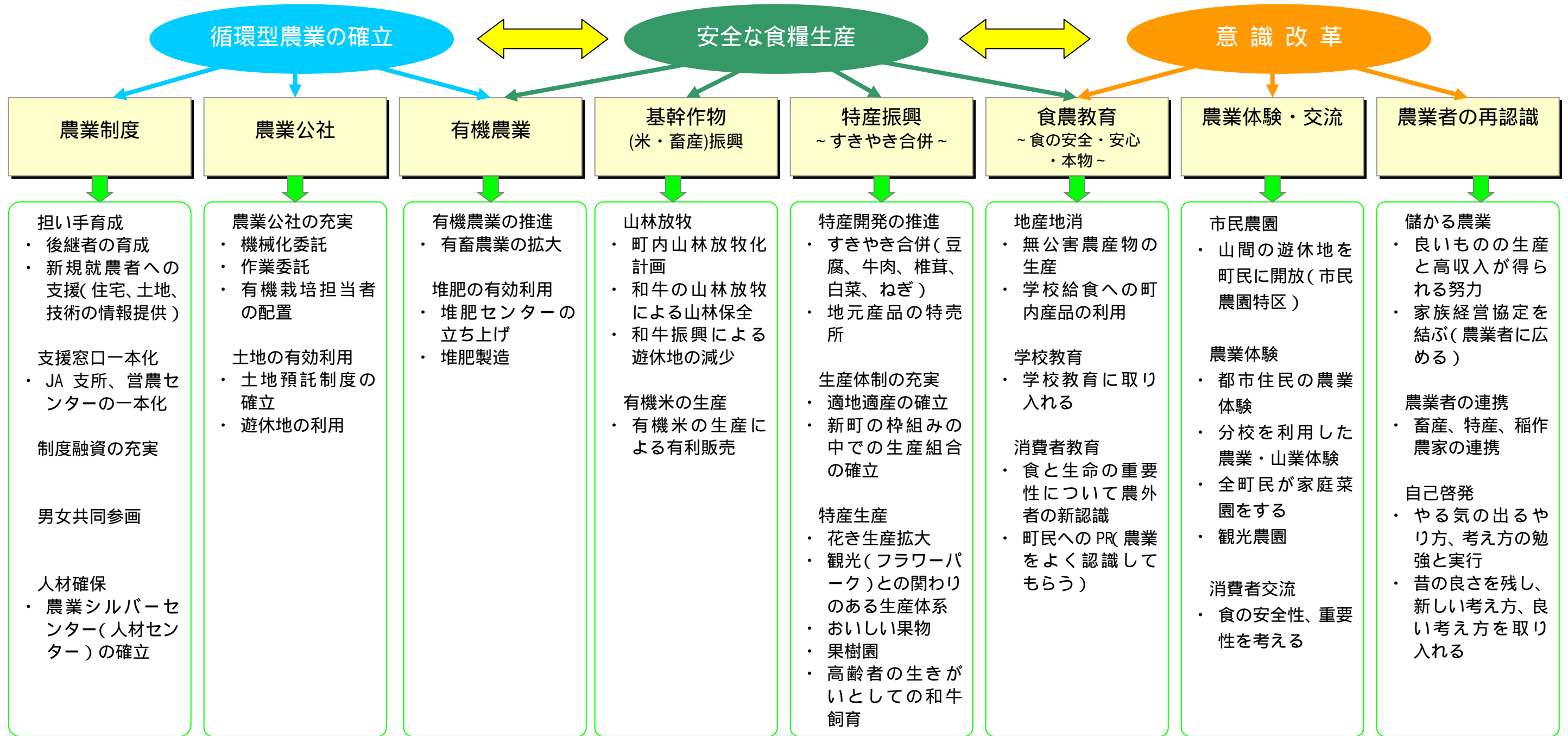
至江府・森山・湯梨浜温泉



農業の振興で夢の広がる町づくり

農業の良さや魅力、価値を広め、「すきやき」の鍋を囲む家族の風景や豊かさが描ける農業施策を!!

豊かな自然環境に恵まれた両町。
この地で生きがいある農業を永続し、子どもに伝えていく必要がある。



新しい雇用の創出のために...

シルバー人材センターで労働者の確保
新規就業者に対して、
2年間200万円/年の補助
(または5年間300万円/年)
住宅の紹介
技術の指導
集落が積極的に新規就農者を受け入れる

担い手の育成と効率の良い農業のために...

役場に農業対応窓口をつくる
特産振興の専属職員をおく
新町単独で機械導入に対し、補助金を
農業委員会による農地の斡旋
新規就農者に町独自の支援策(住宅、施設、
農地等)
新規担い手に対し、5年間は生活費まで面倒
をみる

環境保全のために...

3年以内に有機認証を町内30人取得
有機認証取得に対する指導
認証費用の一部負担
森林を守るために町で人員を出す
和牛の飼育頭数を増加させ、溝口・岸本地
内で500頭に
堆肥センターの堆肥の質(NPK)の安定と
情報(配合割合など)を明らかにする

安全な食糧の供給のために

農業者は安心、安全なものを責任を
もって生産する
町で本物規格認定制度の確立
本物の農産物には“本物シール”を
貼り、顔の見える農産物にする
平成19年10月に米子で開催され
る和牛全共に町内から出品すること
花きの生産、輸送、販売、ブランド
化、新町PRへの支援

消費拡大のために...

ITを利用して全国に発信する
町内の店は町内の生産物のように指導する
学校給食素材供給委員会の設置(生産者、製造業
者、木材加工・陶器製造者)
3年以内に学校給食の素材75%以上を町内産に
する
給食の食器等への地元木材の活用
地産地消費の推進で学校給食とデイサービス等の
福祉関係に利用する

提言を実現させるために...

まちづくり委員会で話し合ったことが行政施策に
反映されるように、半年に1回は集まって話し合おう

農業への理解のために...

若い人たちに魅力を感じてもらうように
勉強会をする
農業を知らない人に農業体験を勧める
観光と結びつけた販売所と加工、体験交流
の場づくり
町が主体になって家庭菜園を作る
大殿地区
中山間地域に何箇所か大規模に
高齢者が家庭菜園の指導者になる
農園の観光化により、梨もぎ園、野菜のつ
みとり園を30箇所つくってネットワー
ク化する
農園のトイレ設備などに一部補助
畑でバーベキュー、すき焼き、コンサート

人生の生きがいのために...

土、汗、自然を実感して、良さを
味わって欲しい
農業者に対しての嫁さん、婿さん
の世話をする窓口をつくる

所得の向上のために...

町内で流通する町内通貨の発行
1~2年以内に家族経営協定を
町内で50戸以上結ぶように努
力する